

2. 西播磨 古墳時代後期末の鍛冶炉跡 有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる

初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨から出土した鍛冶遺跡

赤穂市 有年牟礼・井田遺跡 2011.2.11.



2011.2.8. NHK の 18 時兵庫県のローカルニュースで、

「兵庫県西部の赤穂市の北部の弥生時代中期から古墳時代後期にかけての集落跡「有年牟礼・井田遺跡」で、

古墳時代末期の鉄器工房と見られる比較的規模の大きい鍛冶炉跡が見つかった」と報じ、

鍛冶炉の炉床と推定される楕円形の高熱焼土部や黒い炭や赤茶けた焼土が集積したこれらの廃棄場所の映像が映し出された。

周辺部からは 鉄片や韃の羽口片も出土したという。

「やっぱり 西播磨で製鉄関連遺跡が出た」とうれしくなりました。

「東西の瀬戸内海路と山陰日本海諸国と瀬戸内戸を南北に結ぶクロスポイント」に位置し、初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨。その勢力の源泉はいったい何なのだろうか??

重要交易路の結節点というだけではなく、ほかに何かある。

それは やっぱり「鉄」ではないか・・・と何度か 西播磨の古い古墳群周辺を訪ねてきました。

綾部山古墳群・権現山古墳群・養久山古墳群など西播磨の瀬戸内海岸に近い丘陵には綾部山古墳群・権現山古墳群・養久山古墳群など初期大和と関係深いとみられる豪族たちの王墓である初期期古墳群が数多くあり、その中には 初期前方後円墳や中国鏡や三角縁神獣鏡が出土した初期古墳もある。

また、千種川河口の赤穂市坂越は渡来の技術集団秦氏の古い進出地。「鉄の道」で大陸と大和とつながっている。

「この地には「鉄」資源があるのではないか」「きっと 古い鉄関連遺跡が出土するに違いない」と。

「有年牟礼・井田遺跡」とは どこだろうか???

インターネット検索ですぐに調べると、相生の西側で海岸線沿いを走る赤穂線を分岐して、山陽本線が丘陵地の中に分け入ったところに「赤穂市 有年」がある。兵庫県の西の端 岡山と兵庫の県境近く 相生市の市街地の西の丘陵地南と北を山々に挟まれた狭い平地を東から西へ矢野川が流れ、すぐ南を山陽線・国道2号線が山に沿って走る。

「有年 牟礼・井田遺跡」は JR 有年駅のすぐ東側 南の丘陵地の山裾が迫る崖の上を山陽本線が走る線路沿い北側の畑地にあり、北側には 奥の丘陵地へ向かって 集落と田園地が点在す

2011年02月08日 赤穂民報記者
http://www.akishima-shimbun.jp/news/4626.html

西播磨初、古墳時代の鍛冶炉跡

赤穂市 有年牟礼・井田遺跡から古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初頭)の鍛冶炉跡出土

兵庫県立考古博物館が発掘調査を進めている「有年牟礼・井田遺跡」で、炉跡を含む古墳時代後期末(6世紀末～7世紀初頭)の鍛冶遺跡がこのほど見つかった。同博物館によると、「この時代の鍛冶炉跡が発見されたのは県内でも珍しく、西播磨では初めて」2月11日(金・祝)に一報向け現地説明会を開く。

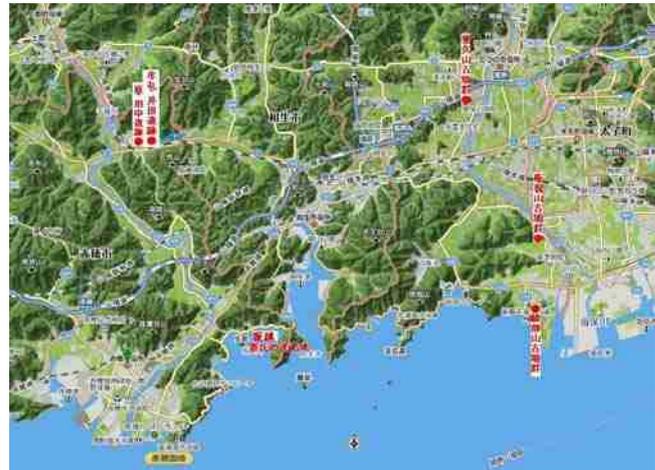
発掘現場はJR有年駅の北東約300メートルの一角。国道2号の付け替え工事に伴い、同博物館が昨年12月から約2000平方メートルを発掘調査している。遺跡は調査区西側の一角。耕土から約40センチ掘り下げた地層で伊底とみられる直径約40センチの焼土面が見つかった。半径10メートル以内では楕円柱建物跡と考えられる柱穴列、鉄滓(てつず)や、製鉄時に生じた鉄片が出土。また、20メートルほど離れたところからは別に空気を送り込む「ご」の羽口片も発見された。

同博物館の早本一宏学芸員(62)は「柱穴は鍛冶工間に関連のある建物跡の可能性が高く、そこで農具や武器を作っていたのではないかと推測。当時の生活を知らずで貴重な調査成果」と話している。

有年牟礼・井田遺跡は土地区画整理に伴い、赤穂市教委が平成19年度から3カ年かけて発掘。これまで弥生中期後半の竪穴建物跡、古墳前期の土器溜まりなどが見つかった。今回の調査でも、これらの時代の特徴を示す土器が多く出土した。

現地説明会は午後1時半から、小雨決行。場×49×3644。

西播磨で初めて古墳時代の鍛冶炉跡が見つかった有年牟礼・井田遺跡。メジャーを当てている部分が炉跡。



るなだらかな傾斜地が伸びている。

かつての矢野川の川岸にあり、「2月11日の午後に今回の発掘調査の現地説明会がある」と知れる。

この矢野川はこの有年で 蛇行を繰り返し、現在の矢野川は 牟礼・井田遺跡の東端で北にカーブして 遺跡の北側 丘陵地の上を横切って東へ流れ下ってゆく。今回の発掘調査は 山裾の狭い崖の上を走る国道2号線を崖下におろして拡幅する工事に先立つ遺跡調査であったという。

「有年」の地名は知っていましたが、この地を歩いたことはなく、調べてみると この地は弥生時代から開けた地で、数々の古代遺跡がこの平地部や北側の丘陵に点在しているのにびっくり。

特に この遺跡の西側 矢野川が千種川に合流する川岸には弥生時代後期 前方後円墳の相形と言われる墳丘墓が出土した有年 原・田中遺跡がある。

また、この遺跡の北側の山裾への傾斜地には 弥生時代の集落が広がり、その奥の山にはこの集落と関連するとみられる6世紀後半の古墳群 塚山古墳群など数多くの古墳群がある。

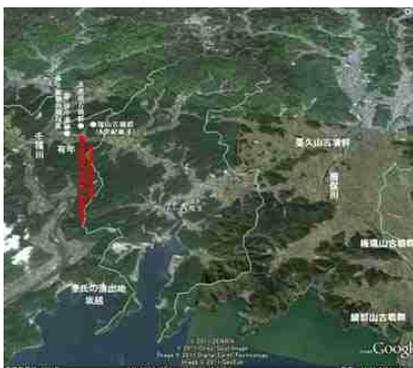


「長年抱えてきた西播磨の勢力の源泉を解き明かしてくれる「古墳時代の鍛冶工房」かもしれない。

南の山の向こう瀬戸内海岸は 渡来の職能集団 秦氏の進出地 赤穂市坂越。この有年にも渡来人の痕跡はないか 是非とも 現地説明会に行こう。」と。

【参考資料】

1. 【和鉄の道】 古代 神戸の「鉄」を訪ねて 神戸にも製鉄遺跡があった 「二宮製鉄遺跡」と「求女塚古墳」
<http://buffalonas.com/mutsu/www/dock/iron/7iron01.pdf>
2. 【風来坊】 西播磨 歴史の町に春を訪ねる 西播磨綾部山梅林と江戸の町並みが残る坂越港
<http://1buffalonas.com/mutsu/www/dock/walk/10walk01.pdf>
3. 有年牟礼・井田遺跡 現地説明会 資料 2011.2.11.
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/excavation/p6krdf0000001nst-att/p6krdf0000001ntx.pdf>



1. 赤穂市有年 牟礼・井田遺跡 walk

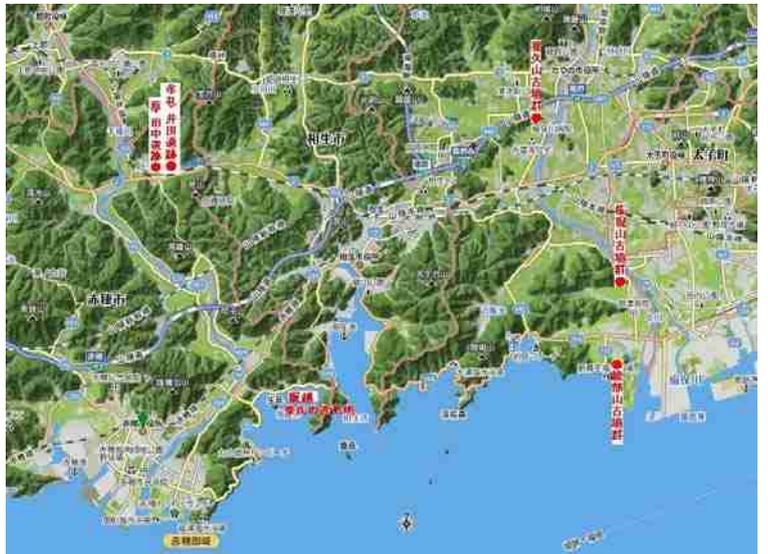
2011.2.11.



西播磨初の古墳時代末の鍛冶工房跡が出土した有年牟礼・井田遺跡 現地説明会 2011.2.11.午後

2月11日 神戸の朝は大雪。いくらなんでも今日は言説ないだろうと念のため、確かめの電話を入れると 西播磨は天気も回復し、遺跡の周辺も全く雪もなく、予定通り現地説明会があるという。もう 西播磨と神戸では全く天候も違う。

あわてて 11 時過ぎの新快速・快速と乗り継いで、相生発糸崎行の電車に飛び乗る。赤穂から左手海岸沿いに行く、赤穂線の電車を眺めながら、相生の市街地を抜けるとすぐ電車は 岡山との県境の山岳地帯の入口にあたる丘陵地の間に入ってゆく。



西播磨の地図 相生から真直ぐ西へ山の間に入ったところが「有年」

地図を見ると 南北両側に小さな山並みが連なる幅の狭い平地部が西の千種川が流れ下る谷筋へ伸びており、この狭い平地の底中央を矢野川が流れ下り、この南北を山々で隔てられた狭い平地部の両側傾斜地に点々と田園と集落が点在。

また、南側山際の一段高いところを国道 2 号線と山陽線が岡山へ走り抜ける。

この矢野川が西の千種川に合流するまでの東西に延びる丘陵地が有年である。西の千種川との合流点を上へ遡れば 上郡から佐用を通過して中国山地 南へ下ると赤穂。そのまま西へ山中を船坂峠を越えると岡山県備前・和気へと抜けてゆく。

あまり 気には留めていませんでしたが、この「有年」は千種川左岸 瀬戸内と山陰 そして山陽道の結節点 弥生時代から開けたところで、弥生後期から古墳時代にかけて 矢野川の北側の緩やかな傾斜地や山裾には数多くの初期古墳群があり、吉備と大和を結ぶ西播磨の重要ポイントとの側面を見せる。



有年周辺の地形と有年地域にある遺跡分布

相生駅を出て 約 5 分 山間に広がる田園の風景を眺めていると 北側線路沿いの畑の一角にブルドーザーと整地残土の山と共に横にテントが張られた発掘調査地が見え、これが「有年 牟礼・井田遺跡」。電車はスピードを緩め、有年駅に停車。神戸から約 1 時間半 12 時 30 分到着。13 時 30 分から現地説明会があるので、もっと沢山人が下りるかと思いましたが、京阪神からはちょっと離れたところで鍛冶遺跡では人気がないのか、有年駅では数人がばらっと下車。

駅前に有年の地域案内板があるのですが、よく判らず。一緒に降りたおばちゃんが「駅前の国道を戻って 途中踏切を渡るのが一番早い」と教えてくれる。周囲を山で囲まれてはいるが、南側の山裾の一段上にある駅から見る北側には奥行きのある傾斜地に田園が広がり東西に延びる平地部も長いので閉塞感はない。明るい平地が広がる山合いの感じの場所である。



山陽線が有年駅に入るすぐ手前線路際に有年 牟礼・井田遺跡が見える 有年駅[上:東 相生側 下:西 上郡側]

国道 2 号線に出て、東へ少し戻る。 国道 2 号線というと片側 2 車線が標準と思っていましたが、ここでは南側を山腹 北側を崖になった傾斜地に阻まれた狭い地形で拡幅の余地がなく、今回この国道を並行する山陽線の北側の平地部に移す工事が計画され、その道路部にあたる牟礼・井田遺跡の発掘調査が平成 19 年から進められてきた。

今までの調査で北側奥から南側 かつての矢野川の岸まで広がる緩やかな傾斜地に弥生中期後半の集落遺跡跡があり、屋根の上に土がかぶせられた土屋根の焼失竪穴 住居 2 棟が見つかるなど貴重な弥生中期後半の集落跡や古墳時代前期の集落遺跡であることが分かった。



今回は一番南側の川岸 集落のはずれ部にあたる場所の 調査で、弥生中期後半の集落跡に加え、古墳時代の前期・後期の集落跡とその時代を示す遺物が数多く見つかった。

牟礼・井田遺跡の南側山際を走る国道 2 号線 すぐ下を山陽本線が並行する



有年 牟礼・井田遺跡の今回の調査区域(左)と発掘された遺構概略図 現地説明会資料より

その中で、今回の調査区西側の一角の田圃耕土から約 40 センチ掘り下げた地層で炉底とみられる直径約 40 センチの焼土面や広範

圃の焼土・炭集積部や多数の土器が見つかった。また、この区画の中 半径10メートル以内で掘立柱建物跡と考えられる柱穴列、鉄滓も出土。また、20メートルほど離れたところからは炉に空気を送り込む「ふいご」の羽口片も発見され、土器片などから 古墳時代後期の鍛冶工房に関連する建物跡の可能性が高いという。西播磨で古墳時代の鍛冶工房の出土は初めてである。

(2011.2.11 現地説明会資料より まとめ)

左手遠くに遺跡を眺めながら国道を東へ少し歩くと国道から左の平地に降りる道があり、踏切が見えている。

この道を下りて 踏切を渡ると東西に広い耕作地がひろがっており、この耕作地から北側一帯が有年牟礼・井田遺跡である。

右手相生側 線路沿いのところが今回の遺跡調査区。区画の端の残土の上にブルドーザが見え、そのブルドーザと山陽本線の間が発掘調査された部分で、調査区のグランシートが取り外され、出土した遺構の横に遺構名を示す看板が立てられ、今日の現地説明会の準備がされている。



西側から 有年牟礼・井田遺跡 現地説明会の準備がされた今回の調査区を眺める 2011.2.11.

田圃のあぜ道を歩いて 遺跡の前に出ると現地説明会の受付テントが設けられ、その横に今回の発掘の概要が写真パネル展示されている。まだ 1 時前で人もまばら。受付で現地説明会の資料をもらう。北側奥には両側をこちらへ枝尾根を張り出した小さな山があり、この二つの枝尾根に挟まれた傾斜地に田畑や集落がこの遺跡まで広がり、この傾斜地を横切って 東西に流れる現在の矢野川の土手が見える。言説の資料によればこの矢野川までの広い範囲が牟礼・井田遺跡である。

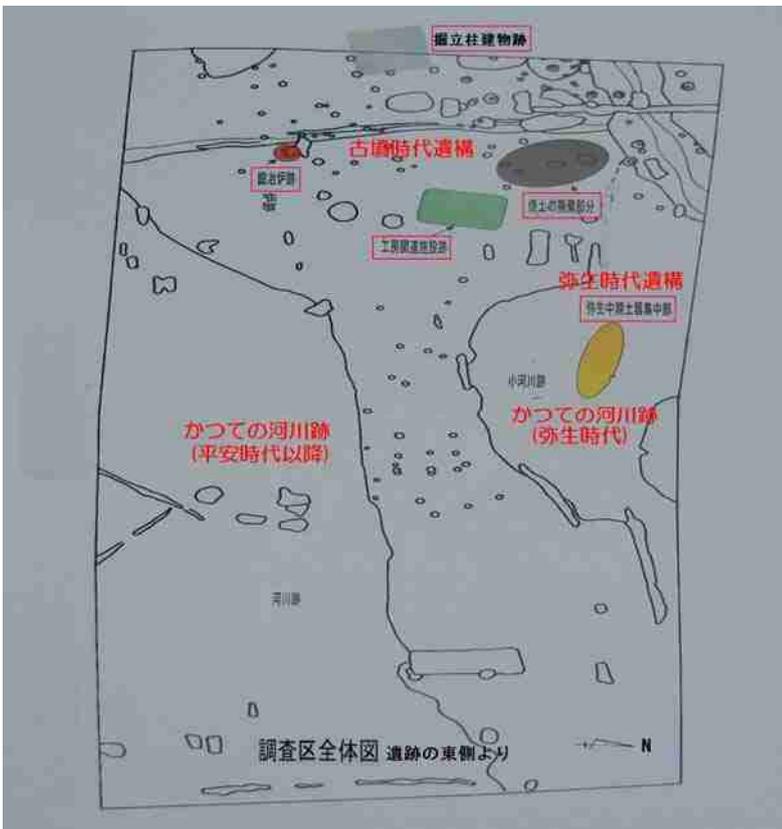


現地説明会の準備の整った有年 牟礼・井田遺跡の南側から北側を眺める

遺跡の北側小高い山までのなだらかな斜面に集落や田畑が広がり その中央部を現在の矢野川土手が横切っている

発掘調査された調査区は平地の田圃の中にあり、遺跡の端に立っても全体がつかみにくい。

現地説明会が始まるまで、まだ時間があるので、東側に高く積み上げられた残土の上に登って、もらった現地説明会資料と突き合わせながら 遺跡の概要を頭に入れる。



南側すぐ上を山陽本線が並行して 東西に延びる今回の調査区は国道2号線付け替えで道路になるところ。

後の現地説明で聞いた話では 矢野川は何度もこの周辺で氾濫し、水路を変更。

線路側半分斜めに水がたまっている部分は平安時代の河川跡で、右側の端を斜めに弥生時代の小河川跡が露出していると。

そして 調査区の北側から緩やかな斜面でこの川岸まで 弥生時代中期の集落があり、写真上方に古墳時代の集落跡の東端がみつき、そこに鍛冶工房が出土。

この調査区の更に西側未調査部にさらに古墳時代の集落跡が眠っており、この部分の調査が進まないと今回の鍛冶工房跡の性格も確定できないという。

また、写真に写ってはいないが、写真右側北側奥の山にはこの遺跡の時代の古墳群(塚山古墳群・木虎谷古墳群)が眠っているという。

残土の上から見ると この「有年」の地も 他の古代豪族の本拠地とよく似通っていることがわかる。

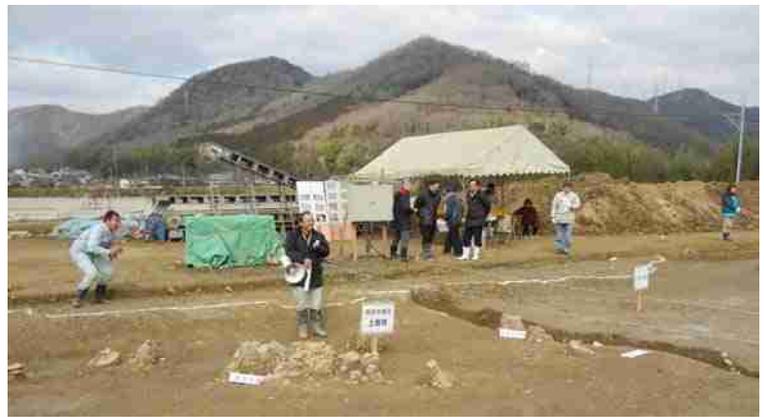
ぐるりとまわりを見渡すと 四方をなだらかな山に囲まれ、東西にこの地の入口があり、東の口をでると広大な西播磨の平野部
西の入り口には中国山地から瀬戸内海に流れ下る千種川で、川を下ればすぐ瀬戸内 川を遡れば奥播磨から美作・山陰へと続く。
北から南へなだらかに傾斜する平地が南側の山裾を東口から西口へ流れ下る矢野川の川岸までひろがり、その時代時代の集落が
営まれ、背後の山腹には 古墳時代 ここに住んだ人たちの古墳群が営まれている。

やっぱり この地は西播磨の豪族が拠を構えた地だろうか 南の山の向こうは 古代の職能渡来集団 秦氏の進出地
渡来人と関係していないだろうか この地は「古代の鉄の道」につながっているのだろうか…
「大和王権の成立に大きな役割をはたした西播磨 その源泉はなにか」この地もそんな西播磨の拠点
そして それには「鉄」が絡んでいるのか…… ますます 夢が膨らむ。

2. 有年 牟礼・井田遺跡 現地説明会 2011.2.11.

午後1時30分 参加者は約30名ばかり。

有年牟礼・井田遺跡発掘調査の直接担当の兵庫県立考古博物館 岸本一宏学芸員の案内解説で 調査区内の遺構のすぐそばまで
立ち入っての現地説明会が始まった。きさくな解説に 色々質問が飛び、丁寧に解説いただいて楽しい現地説明会でした。



有年牟礼・井田遺跡発掘調査の直接担当の兵庫県立考古博物館 岸本一宏学芸員の案内・解説で現地説明会 2011.2.11.



弥生時代中期の小河川跡と弥生の土器集積出土地から奥 古墳時代の鍛冶工房跡出土地



調査区の南西端で出土した鍛冶工房跡 古墳時代後期集落跡の東端とみられる

赤茶けた焼土や黒い炭が集積 廃棄場所 また 奥に楕円形に硬く焼しめられ田場所があり炉跡とみられる
 この区域からは鍛冶炉跡 炭・焼土の廃棄場所跡 建物跡とみられる柱穴を伴う平坦面 などの遺構とともに鉄滓・鍛造剥片 周辺部から 鑢羽口片が見つかり、古墳時代後期末(6世紀末頃)の鍛冶工房跡とみられる。
 また、「これらの遺構は今回の調査区の更に西側の未調査区につながっているとみられ、ここに古墳時代後期の集落中心部があるとみられる。この鍛冶工房も この集落の「村の鍛冶屋」なのか もっと規模の大きなものなのか さらに調査を待たないと何にも言えない」と。



出土した鍛冶炉跡



出土した鍛冶関連の遺物

鍛冶炉跡は 黄白の高温に焼き締められた部分 赤茶けた色の部分がみられるが、「鍛冶炉そのものはすでに削り取られていて、炉の構造の詳細はよく判らない。

また、この地域の北側山腹にほぼ同時代の塚山古墳群があり、おそらくこの人たちがこの鍛冶工房をいとなんだのであろう」と。

また、一番興味があったこの人たちと渡来や大和の職能集団との関係はよく判らなかった「一部 朝鮮半島系の遺物も出ていることは出ているが、はっきりしていない」と。



3. 古墳時代後期末の鍛冶工房跡が出土した赤穂市有年 を歩いて



遺跡の中を歩きながらの約1時間ほどの現地説明会。知らなかった「有年」の昔を知ることができました。

弥生時代から開けた歴史ある場所。兵庫県に居ながら しかも 何度も通ったことがありながら まったく知りませんでした。

綾部山古墳群や権現山古墳群などにみる古墳時代 西播磨が初期大和王権成立に大きな役割を果たしたと知って、

そもそも なぜ この地の首長たちが 大和王権と結ぶほどの勢力をのばしたのか…… 播磨には 西播磨より もっと広大な播磨平野中心部があるのに……と 不思議がったのが始まり。

淡路島で弥生時代後半の大規模な鍛冶工房跡が出土し、この位置づけをめぐって ますます 播磨の重要性がクローズアップ。

播磨の勢力の源に「鉄・金属」資源があるではないか 播磨には渡来技能集団の痕跡もあるし、播磨の奥の中国山地は古代からの大製鉄地帯。また、中国山地まで行かずとも播磨の北には銅など金属資源が出る。

綾部山など西播磨にも金属資源・「鉄」があったのではないかと……

その「鉄」が西播磨の首長の勢力拡大のひとつのキー

そんな夢を描いて 西播磨を眺めていた時に この赤穂市有年 で鍛冶工房出土。

残念ながら まだ この鍛冶工房がどんな性格の鍛冶工房なのか また 上記したような「鉄のロマン」を秘めた遺跡なのかよく判らない。 現地説明の岸本さんは「今のところ村の鍛冶屋ではないかと……」と。五斗長垣内遺跡の鍛冶工房遺跡でも 同じことが言われたのですが、それなら もっと各地で鍛冶工房跡が出土してもよさそうなものとも思っています。

また、この有年 牟礼・井田遺跡で鍛冶工房が営まれたこの時代は大和王権がしっかり確立し、日本でも製鉄が始まり、鉄素材が広く流通した時代になっていただろう。その素材はどこから来たのか…… 千種川を下ってきたのだろうか……

西播磨の地で古墳時代後期末に出土した初めての鍛冶工房 しかも その地は西播磨の初期古墳群が集積する「有年」の地。

これからどんな展開が出てくるのか 「鉄のロマンを秘めた鍛冶工房跡」の出土である。

現地説明の後 北側の古墳群のある山にまで 行きたかったのですが、地図もなく 時間もおそく 古墳群を見ることはできませんでしたが、遺跡の北を流れる現在の矢野川の土手に立って 遺跡を見ながら 西播磨のロマンに思いをはせました。

鍛冶工房跡の遺構につながる西側未調査部分の発掘で どんな展開がみられるのか 楽しみ。

夕日に染まる牟礼・井田遺跡をながめながら 矢野川の土手を JR 有年駅へ

久しぶりの現地説明会 「鉄のロマン」に浸りながらの一日でした。

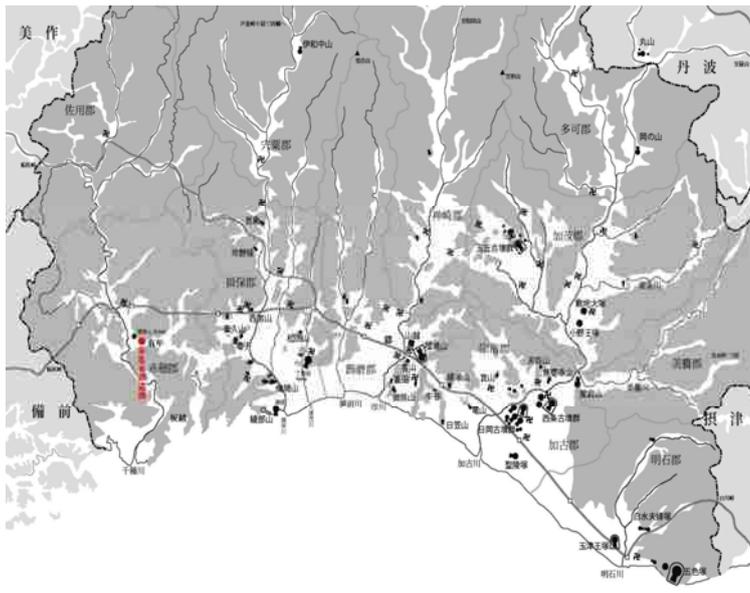
2011.2.11. 赤穂市 有年 矢野川の土手より 夕暮れの牟礼・井田遺跡を眺めながら

By Mutsu Nakanishi



現在 有年 牟礼・井田遺跡の北側を流れる矢野川

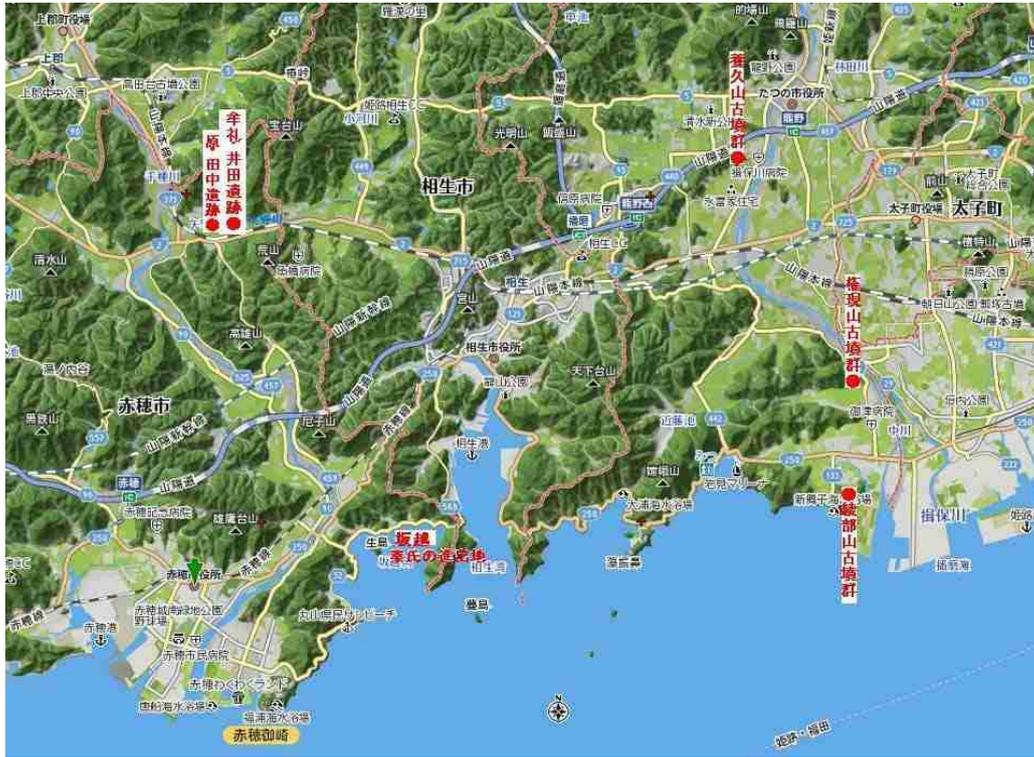
参考1 初期古墳群数多く分布する播磨の古墳分布図と古墳時代の幕開けに大きな役割を演じた播磨



兵庫県考古学年表(部分) 古墳時代の始まりに大きな役割を演じた播磨

年代	本土の時期区分	主なできごと	県内の主な遺跡
2万年前	旧石器時代	石斧・ナイフ形石器など日本固有の旧石器文化成立	西八木遺跡(明石市)
	中期	粟根島始良カルデラ噴火、東北まで火山灰降る	七日市遺跡(春日町)
	後期	最後の氷河期のピーク、海面百数十メートル低下	飯井・寺谷遺跡(播磨市)
B.C11000	草創期	土器・石器の使用が始まる	神籠遺跡(日高町)
	前期	貝塚の使用が始まる	播磨遺跡(神崎町)
	中期	各地に大規模な縄文集落成立	片吹遺跡(龍野市)
B.C4000	前期	遺物の埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	各地に大規模な縄文集落成立	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
B.C2000	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
B.C1000	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
B.C500	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
A.D.1	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
200	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
400	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
600	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
飛鳥時代	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
奈良時代	前期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	中期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)
	後期	遺物埋め込み、気候の温暖化、海水面の上昇、海が内陸に入る	福野遺跡(一宮町)

播磨の古墳分布図と古墳時代の幕開けに大きな役割を演じた播磨



古墳時代後期末の鍛冶工房が出土した「有年」と周辺西播磨の古墳群



「有年」と周辺の遺跡群

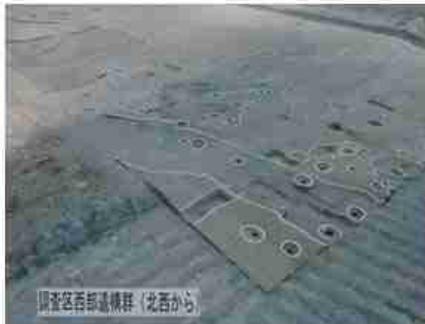
弥生時代中期から古墳時代にかけての集落遺跡群・初期古墳群が集まっている

参考2 【有年 牟礼・井田遺跡 現地説明会 現地展示パネル】 2011.2.11.

一部 現地説明会に参加して撮った写真を加えています

二部

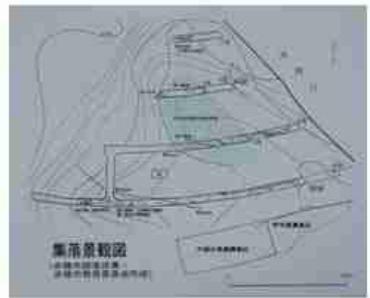




調査区西部遺構群（北西から）



弥生中期土器の出土状態



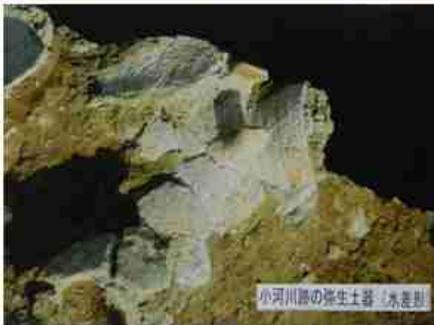
集落景観図

（弥生中期後半）

（弥生中期後半）



弥生時代の小河川跡（東から）



小河川跡の弥生土器（水差形）



弥生時代中期後半の土器



小河川跡の弥生土器出土状態（南から）



弥生時代中期後半の土器

石製の矢じり

弥生時代中期後半の土器



弥生時代中期後半の土器



埴土・灰の遺構状態（西から）



竈跡（西から）



弥生時代中期後半の土器

上層版（こしき）

弥生時代中期後半の土器

弥生時代中期後半の土器

古墳時代後期の土器



変遷場所の炭化物詳細（北から）



いいこの形口

鉄片

新石器片

貫き

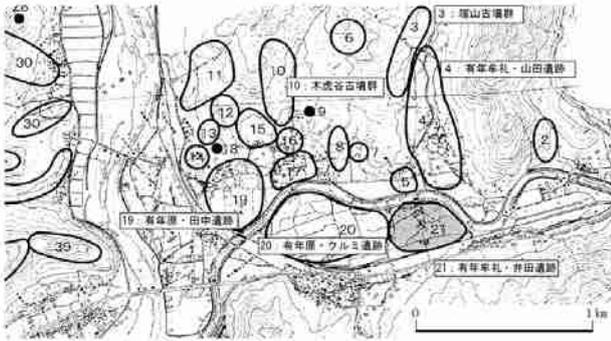
穀刈関連の遺物

有年牟礼・井田遺跡

現地説明会資料

2011年2月11日

一般国道2号相生有年道路整備事業に伴い、兵庫県立考古博物館では、赤穂市有年橋・有年牟礼に所在する「有年牟礼・井田遺跡」の調査を実施しています。調査は、道路予定部分のうち約2,000㎡について10月から実施していますが、弥生時代中期後半（約2,000年前）と古墳時代後期末（約1,400年前）を中心とした、遺跡の一部の姿を明らかにすることができました。今回、その調査結果を説明いたします。



周辺の遺跡

これまでの調査

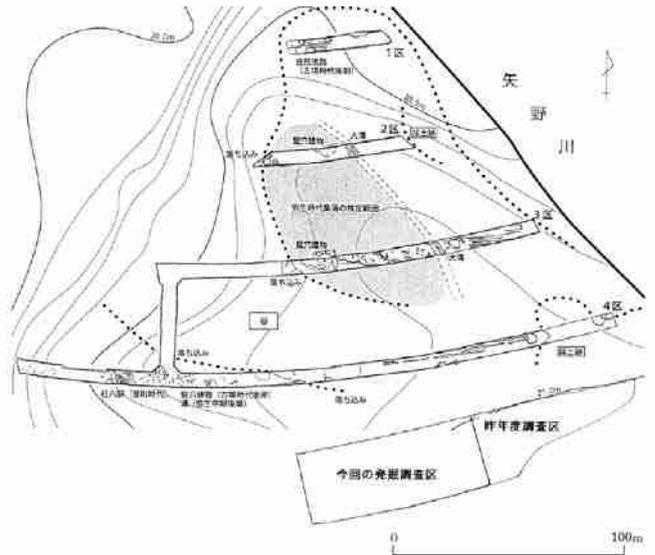
有年牟礼・井田遺跡は、平成19年度～21年度に赤穂市教育委員会により、土地区画整理事業にともなって、発掘調査が行われました。

その結果、弥生時代中期後半、古墳時代前期、古墳時代後期末を中心とした集落跡であることがわかりました。同時に、弥生時代集落の範囲も推定されており、発見された竪穴建物跡はどれも使われており、残っていた埴土の状態から土ぶき屋根であった可能性も指摘されています。

古墳時代前期のものでは土器ばかり、古墳時代後期末では竪穴建物跡が見つかり、古墳時代後期末の集落についても中心部分ある程度推定することができます。

なお、これらの時代はほぼ室町時代の柱穴も多く見つかることから、その時代にも人々が生活していた建物跡があったことがわかっていきます。

今回の調査区は弥生時代集落推定部分の南側、古墳時代後期末と思われる部分の南東側にあたっており、それら2時期の生活痕跡を発見することができました。また、古墳時代前期（約1,700年前）の溝跡を発見し、土器も出土しました。



有年牟礼・井田遺跡の集落景観図（赤穂市調査成果・赤穂市教育委員会作製）

（発掘調査 2010『有年牟礼・井田遺跡』兵庫県教育委員会に寄贈）

今回の調査成果

兵庫県立考古博物館による有年牟礼・井田遺跡の発掘調査は、今回で2回目となります。

弥生時代中期後半 東西方向の小河川跡から多量の土器が拵てられた状態で見つかりました。赤穂市による調査によって、弥生時代集落の東端は大溝で区画されていたと判断できますが、今回の土器の発見から、集落の範囲が南側に拡大し、南端については小河川を隔りしていた可能性がでてきました。

古墳時代後期末 調査区の西部で伊勢、広範囲の埴土・埴土集積部分、底部に近い土器が多くあり柱穴を伴う平らな面が発見され、そこから敷草（てっさい）や鍛冶剥片（たんぞうはくへん）が出土し、周辺からは輪（ふいご）の羽口（はごち）も見つかっていることから、鍛冶（かじ）工房跡と考えられます。また、伊勢などはそれぞれ、鍛冶炉跡、埴土や埴・灰などの廃棄場所、屋根をもつ鍛冶工房関連施設と判断しています。

この時期の集落の中心部は、今回調査区の北西側にあると推定できますが、そうすると、鍛冶工房は集落南東部のはずれに位置することになり、そこで農具や武器などの製品を作っていたと想定されます。また、この時期の竪穴建物跡になると思われる柱穴が並んだ部分も、西端で確認されています。

鍛冶工房跡は、淡路市の五斗長内遺跡において兵庫県で最も古い弥生時代後期末のものが見つかっています。有年牟礼・井田遺跡の鍛冶炉跡はそれよりも新しいものですが、古墳時代の西隣部では初例となるようです。



灰・埴土の廃棄部分



工房関連施設跡



工房関連施設での土器出土状況



鍛冶炉跡



鍛冶工房の様子（参照品『技術の考古学』より）



小河川跡の弥生土器出土状況



弥生土器（壺）出土状況